

タイトル

『汐製菓会社の新作 ② サブレ 2』

シーン：突飛なアイデア会議

場所：汐製菓会社 社長室

汐製菓会社の社長室。壁一面に新商品や菓子
のポスターが飾られ、デスク上にも様々な
試作品やノートが散らばっている。汐はデスク
に向かい、試作品のサンプル一枚一枚味わっ
ている。その目はキラキラと輝いているが、少
し不安そうな表情をした塩田が部屋に入って
くる。

塩田

(入室しながら)

「社長、また新しいアイデアですか？」

汐

(にやりと笑いながら)

「塩田くん！大発見だよ！これで世間がひっくり返るぞ！」

汐は立ち上がり、塩田に向かって手に持っていたサブシを掲げる。

汐

「これが次の大ヒット商品だ！『チェリー・レモン味サブシ』！どうだ、凄いだらう？」

塩田はサブシを見つめ、一瞬可憐いながら

も、真面目に質問を投げかける。

塩田

「チェリーとレモン…それは、ちょっと予想外の

組み合わせですね……。なぜ、この組み合わせに？」

汐

（手を広げて説明しながら）

「それが面白いんだ！誰も予想できない組み合わせだからこそ、驚きを生むんだよ！食べたことない味だろ？サブレの甘さにレモンの酸味、そしてチェリーの風味が広がる！それが、消費者にとっての新しい『発見』なんだ！」

塩田

（眉をひそめて）

「でも、正直言うと、どうしてもレモンとサブレって合うイメージが湧かなくて……。実際に商品化したとき、消費者はどう反応するか……。心配です。」

汐は少し考え込み、そして笑顔を見せる。

汐

「心配するな、塩田くん。新しいことをやらな

ければ、何も変わらない。だからこそ、試してみ
る価値があるんだ。大切なのは『挑戦』だ
よー！」

塩田はため息をつきながら、メチを取る。

塩田

(心の中で)

「(社長…本当に何でも思いついちゃうんだか
ら…でも、今回はどうなるのか、興味はある
わ…)」

シーン2：開発部での試食会

場所…汐製菓会社 開発部会議室

開発部の会議室。長いテーブルに、サツメの
試作品が並べられている。汐がその中心に女
ち、部員たちに向かって興奮気味に語りかけ

る。周りの開発部員たちは、試作サブレを
一つ一つ手に取り、口に運びながら意見を交わ
す。

汐

(やる気満々で)

「さあ、皆！これが新商品の『チェリー・レモン
味サブレ』だ！試してみて！」

開発部リーダー

(サブレを手にとって、まずは匂いを嗅ぎ、次
にひとくちかじる)

「うーん…予想以上にレモンの香りが強い。
最初はちょっと甘いけど、その後に酸味が来
るな。」

社員△

(少し顔をしかめながら)

「なんだか…複雑な味が広がるね。最初はレ
モンの酸っぱさが引いて、次にチェリーの甘さ
が…でも、なんか後からクセになるかも？」

社員 田

(もう一口かじりながら)

「うーん、これはちよつと…最初の印象は変だ
と思ったけど、食べ進めていくうちに悪くない
かも。いや、むしろ新鮮。」

汐

(嬉しそうに)

「ほら！面白いだろう？何回も食べたくなる
感じがするんだよ！」

塩田

(少し慎重にサブレを取って、一口かじりなが
ら)

「確かに、最初は意外すぎて驚いたけど…食
べていくうちに、段々と癖になる感じ。これ
は、もしかしたら…成功するかも？」

開発部リーダー

(頷きながら)

「まあ、次回の試作ではもう少しレモンの酸味

を調整したほうがいいかもしれないけど、全体的に面白い商品になるかもな。」

社員の

(興奮して)

「やっぱり、こういう斬新な組み合わせって面白い！食べるたびに新しい発見がある感じ…」

開発部のメンバーは笑顔で、サツシを取りながら話し合う。汐はその様子を満足そうに見守っている。

シーン3：試食会での反響

場所：商店街 試食ブース

汐と塩田は、商店街に設置された特設試食ブースで「サツシ・シメン味サツシ」の試食を

行っている。汐はチェリーの着ぐるみ、塩田はしそこの着ぐるみを着て、少し恥ずかしそうに、しかし必死に宣伝している。通行人たちは一見驚いたような顔をしながらも、興味を示し近づいてくる。

汐

（元気よく大声で）

「世界初！チェリー・レモン味サブレ！食べてみてください！驚きの味が広がりますよ！」

塩田

（少し恥ずかしそうに、でも真剣に）

「これ、ちょっとクセがあるけど、後を引く味なんです！ぜひお試しください！」

通行人が次々と試食し、感想を述べる。

通行人一

（サブレを一口食べて、驚きの表情）

「うわっ、最初の甘さから、後でレモンの酸っ

ばさがじわっとくる！予想外だけど、面白い味だね！」

通行人²

（また一口食べて）

「これ、クセになるかもしれない。最初は驚くけど、だんだんとその味に引き寄せられる感じ。」

通行人³

（ニコニコしながら）

「これ、また食べたくなる！チェリーとレモン、最初は違和感あったけど、だんだん馴染んでくる！」

塩田

（心の中で）

「（意外と好評…これ、もしかしたら本当にヒットするかも…）」

試食ブースがどんどん賑わい、通行人たちが次々とサブリしを手取る。汐は嬉しそうに、その様子を見守っている。

シーン④：メディア取材と社長の熱弁

場所：テレビスタジオ

汐と塩田は、テレビ番組「話題の商品を追え！」の取材を受けるため、スタジオに出演。ホストが番組の視聴者に向けて、彼らの新商品について質問する。汐はエネルギーシムに、自信満々に答えていく。

インタビュー

「汐社長、チェリー・レモン味サブリ、あの異色の組み合わせ、どうしてこのアイデアが生まれتانですか？」

汐

（熱意を込めて、視聴者に向かって語りながら）

「まず、常に新しいことに挑戦し続けるのが僕たちの理念なんです。最初、レモンだけのサブシを考えたんですが、何かが足りなくて…それでチェリーを加えた瞬間に『これだ！』と思いました。」

インタビュー

（興味津々で）

「なるほど、チェリーとレモンを組み合わせたのは、まさに新しい発見だったんですね。でも、最初はすごく変わった味だと思いました。」

塩田

（控えめに）

「実は最初、私もそのバランスに不安を感じていました。でも、試食してみても、意外にハマってしまっただけです。クセになる味です。」

インタビュアーは感心し、視聴者に向けて次の質問をする。

インタビュアー

「これ、かなり話題になっていますが、今後の展開はどうなりますか？」

汐

（自信に満ちた顔で）

「これに満足することはありません。次はさらに驚くべき商品を投入して、世界をもっと面白くしますよ！次は…トリュフ・ピクルス味サブレを考えているんです。」

インタビュアー

（驚いた表情で）

「トリュフとピクルスですか！？それもまたすごい組み合わせですね！」

シーンの…次なる挑戦と新たな味

場所…汐製菓会社 社長室

汐はデスクに座り、次のマイグマを考え込んでいる。その横には塩田が座っており、少し不安そうに彼を見つめている。

汐

（ワクワクしながら）

「次は『トリユフ・ピクルス味サブレ』だ！」

塩田

（驚き、少し顔をしかめて）

「トリユフとピクルス…それはちょっと、無茶じやありませんか？」

汐

（力強く）

「でも考えてみて！ピクルスの酸味と、トリユフの深い香り…組み合わせたら面白いだろ

う！」

塩田

(ため息をつきながら)

「社長、あなたのアイデアは…とんでもないですね。でも、またすごい商品が生まれる予感がします。」

二人は未来を見据えて、次の冒険に向けて準備を始める。